レッスン：SPA66

テーマ：質問＆答え

SPA.No.66/KE9/J13

私の姉妹・兄弟達よ、スピリット、光、そして火の子供達よ。私たちは主、絶対、主の聖性に抱かれています。

Q：月が黄道の12宮に沿って運行するときに、多くのものに影響を及ぼすという事実を知っています。そして今、このような知識が再び盛んになり、多くの人が関心を寄せています。真理の探究者もそれに注意を向けても構わないのか、あるいはそれはマジックと見なされるのでしょうか？

Ｋ：月に関して私たちが知るべき唯一のことは、低いバイブレーションの現在のパーソナリティーが次の転生に入る前に世話を受ける場所、つまり病院として月が使われる、という事実です。これが私たちが月について知るべき唯一のことです。

そして前にも月について私たちが次のことを述べたのですが、それは月に一度、月と地球の間につながりが生じるということです。そのつながり、橋の理由は、死という現象の後に現在のパーソナリティーが月に置かれる場合、そのための道となるのです。しかし残念なことに、前にも述べたように不可視のヘルパーによって月に導かれたパーソナリティーが時にはこの道を発見し、月から逃げ出すのです。彼らは月から（地球に）逃げ出して、この次元のバイブレーションのなかで自分を現すために人間の体を占有するのです。その結果としててんかん、けいれん、引きつけといった症状が生じます。

さて、意識的にまたは無意識的に人間の体を占有するのかどうか、それは別の問題です。実際にはそれは無意識的に行われています。ですから、それは下方へと移行するエネルギーであるかどうかは重要ではありません。実際、それはエネルギーではありません。それはつながり、通り道であり、地球のサイキカル体と月のサイキカル体がつながるのです。

Ｑ：古代において、作物の成長を促すホルモン、その他の物質が出来る前は、人間は自分たちが理解するエレメントと共に働いていました。月は海に影響を与え潮の満ち干を生じさせますが、人間もその同じ原理を利用してきました。人間は月の磁気的パワー、あるいはエネルギーが高い時に作物の種を蒔こうとしました…。

Ｋ：それはエネルギーではなく、磁場です。なぜなら、地球の磁場がある程度まで影響を受けるのです；答えはイエスです。そしてその理由とは、月のサイキカル体が地球のサイキカル体とつながるからであり、それが唯一の理由です。

Ｑ：太陽系がその軌道から外れることなくバランスの取れた状態に留まるためには、全ての惑星と全ての衛星の間につながりがあるのでしょうか？

Ｋ：このつながりによって地球と月の間のバランスが影響を受けることはありません。なぜならこの通り道があろうとなかろうと、地球と月の間にはつながりがあるからです。月は実際地球の一部と見なされています。太陽系の観点から見ても、太陽系のバランス、調和という観点から見ても、月は地球の一部とみなされ、両者は一体であると見なされています。

Ｑ：それでは、惑星に衛星としての月がいくつあろうとも、それらはバランスが取れていますが、月を抱えている各惑星は影響をうけるのですね。

Page2

Ｋ：各惑星は月がいくつあろうとも、太陽系から見てその惑星と月は一体と見なされます。

Ｑ：まもなく四つの惑星が同じ側に並ぶという現象が生じます。そしてその結果磁気による引っ張る力が非常に強くなり、地球の氷山や地軸に影響を及ぼすと信じられていますが、どうなのでしょうか？

Ｋ：私はそうは思いません。なぜなら、私たちの太陽系はそれだけで存在しているのではありません；それはこの銀河系の他の太陽系と関係しており、そこにもバランスがあります。もし一方の側への集中的な磁場による引力が生じるとするなら、他の太陽系との間にそれと拮抗するような力が働くでしょう。一つの太陽系に何が生じようとも、常にバランスが働きます。私達は自らの無知ゆえにバランスに影響を与えて、惑星の位置を変えるようなことも可能です。かつて無知ゆえに私たちはこの惑星に大きな爆発をもたらしたのです。

Ｑ：しかし、歴史によれば、何百万年もの間に地球の気候は変化してきました。それを考えれば、地理的状況は様々な理由で変化したのだと思いますが。

Ｋ：経験です。この地球の長い歴史を見てみると、現在までいかなる変化もありませんが、唯一の変化は何百万年も前に、地球は現在のように小さくなったという事実です。この地球上に私たちが大きな爆発をもたらしたからです。この「地球」はかつては今よりも遙かに大きかったのです。しかし心配する必要はありません。二度とそのようなことは生じないでしょう。

Ｑ：月との間の道ですが、それは双方向の道であり、彼らが逃げ出すのですか？

Ｋ：そうです、それは双方向の道です。「治療」が必要なパーソナリティーたちはそこに連れて行かれます。彼らはその現れ、行動、暴力的性格などのゆえに治療が必要となるのです。彼らはもっと静かになり、次の転生の準備をする必要があるのです。彼らがどれほど長くそこに留まるかは誰もわかりません。時間の観点から見れば、500年、１千年、２千年かもしれないし、そのパーソナリティー次第です。

Ｑ：満月のときには眠らないという人もいます。それは本当でしょうか、それとも単なる思いこみでしょうか？

Ｋ：満月の時に影響を受ける人もいます。その理由は、月と地球のサイキカル体がつながっているからです。

Ｑ：精神病院で行ったテストがありますが、満月の時には患者たちが過度に興奮するという証拠があります。

Ｋ：そのとおりです。肉体とサイキカル体とのつながりがゆるんでいたり、あるいはその人の現れがアンバランスな場合にはそのようなこともありますが、そのようなことは誰にでも生じるわけではありません。

Ｑ：実際、私は自分の植物に水のサイン（＊宮）の時に水を与えていますが…。

Ｋ：それらの考え方に神経質なほど従うようなことはやめてください。

Ｑ：しかし、それもまた不動の法則に属しているのではないですか？なぜなら月の運行によるものですから…。

Ｋ：確かにそうです、それは創造界の不動の法則によるものです。しかし、だからといって私たちが不動の法則すべてに触れていなくてはいけない、というものではありません。現在のパーソナリティーが触れるべきではない法則もあります。なぜなら、それらは私達の気づきを高める助けにはならないからです。

Page3

Q:　わかりました。しかし例えば、園芸に関してはより生物学的に行おうとする場合、それは本当に役立つのです。（＊月の運行に沿って）適切な日に行うと肥料も少なくて済むのです。ですから自然に反することではなく、自然にとって良いことです；それでもそれを使うべきではないのですか？

Ｋ：自然は実際には私達の助けを必要としていません。それどころか反対です。人間が介入することによって自然がアンバランスになるのです。

Ｑ：しかし、かつては農夫たちは化学肥料をたくさん使用していましたが、今は月の運行を考慮して昔の自然な農業のやり方に戻ろうとしているのです。その結果、より健康的な食べ物が手に入るようになります。ですから…。

Ｋ：他の方法もあります、つまり自然なやり方が；ある程度マジックに触れるような、そのような方法を使用する必要はないのです。言い換えれば、あなたはエレメンタルを使用し、時にはそれらのエレメンタルは低いバイブレーションのパーソナリティーを支配します。ですから、自然はあるがままにしておきます。自然は私たちの干渉を必要としません。実際、人間のいかなる努力も必要としていないのです。

私たちがするべき唯一の努力は、自然のやり方、流れに反しないようにすることです。なぜなら、私たちはいつもそうしているからです。

Ｑ：そのようにおっしゃるのを聴くのは素敵なことですが、しかし沢山の人間が食べ物を必要としています。ですから、私たちは助けを与える必要があるのです。

Ｑ：ここ数年の間に消費者が必要とする食料の量が増加したことを考えると、そして人々はかつてはローテーション方式で作物を育ててきました。もし今彼らがオーガニックな方法で農業を行うならば、人々は飢えるようになると思います。

園芸および農薬に関する一般的なディスカッション

Ｋ：いずれにしても、私たちは太陽が与えてくれるものを利用する必要があります。私たちにとって月を「利用する」必要はありません。

Ｑ：（＊月との間の）道が開くことについて質問があります。あなたはてんかんの発作について述べましたが、それなら一月に一度だけそのような症状が生じるということでしょうか？というのも、それはいつでも起きているからです。

Ｋ：月から逃げだしたそれらのパーソナリティーが全員「捕まって」月に戻されるわけではありません。ですから、中には、かなりの数となりますが、物質的地球のエーテル界のなかに留まっているパーソナリティーもたくさんあります。エーテル界と言うとき、それは物質のエーテル的状態のことです。それゆえにいつでもてんかんや引きつけの発作が生じるのです。しかし、満月の時はそれはより強くなります。月に連れ戻されないパーソナリティーがたくさんいます。彼らは無意識的に肉体に取り付きます…人間の肉体であろうと動物の肉体であろうとも。それゆえ時には動物がけいれんの発作を起こすのです。犬がそうなったのを見たことがありますが、もしあなた方それを見たなら犬がロボットのようになったと思うことでしょう。

Ｑ：月と地球の間の道が開くと言いましたが、それをエネルギーのようなものとして理解できるでしょうか？助けを必要としているパーソナリティーに同調するのでしょうか。入院を必要とする様々なパーソナリティーについて理解しようとしているのですが。つまり、エネルギー、あるいは磁場が生じた時、助けを必要とするそれらのパーソナリティーたちはそれに引きつけられるのでしょうか？どのような仕組みになっているのでしょうか？

Ｋ：違います。それは開かれた道のようなものではありません。地球と月のサイキカル体がつながると言うとき、それは超物質（supermatter）がつながるのです。サイキカル体は超物質からできています。超物質は地球のあらゆる所に存在しています。地球の内側にもあり、地球の外側もある高さまでそれによって包まれています。そして月の超物質も月の内側だけでなく、ある程度まで月はそれに包まれています。そして満月になると何が起きるでしょうか？月のサイキカル体、月の超物質が膨張します。そして地球のサイキカル体とオーバーラップします。そのようにしてつながるのです。ですから特別に道が開かれるということではありません。さて、どのような「フォース」がパーソナリティーを集め、月に連れて行く、つまり入院させるのでしょうか？そのフォース、パワーとは何でしょうか？それはアガピのパワーです。アガピの法則です。主の慈悲の結果と言うことができます。

Page4

実際、それは具体的にどのように行われるのでしょうか？それは不可視のヘルパーを通じて行われます。この世界のバイブレーションあるいは他の次元のバイブレーションに存在するヘルパー達です。勿論、そのために助けを与えているアークエンジェルたちもいます。もしそれが単なる法則、例えば特別な注意を必要としない向こうの法則だけだったなら；パーソナリティーはどのようにして逃げることができたのでしょうか？しかし逃げるパーソナリティーたちもいて、それらを集めて戻す必要があります。しかし不可視のヘルパー達が一度に全員を集めて連れ戻すことは不可能です。その結果、残るパーソナリティー達もいます。なぜでしょうか？経験を提供するためです。てんかんという現象があり、けいれんという現象、その他があります。人間が似たような経験をするために、そのような現象が必要なのです。

Ｑ：時に文献のなかで、他人を特定のバイブレーションのなかに閉じこめる能力のある人がいて、閉じこめられた人はそこに閉じこめられたままとなります。彼らを逃亡させ、自由にする不可視のヘルパー達がいるのなら、なぜそういったことが可能となるのでしょうか？

Ｋ：そういったことはもはや起こりえません。そうです、過去にはそういったことが起こりえたのです。なぜなら、過去において人間は創造的エーテルを使うことができたからです。人間は誰かをマジックによって閉じこめることができました。マジックは実際大きなパワーを発揮しました。しかし、もはやそれは不可能です。もはやマジックは過去のように強大なパワーを発揮することは不可能です。

Ｑ：それでは言い換えれば、創造的エーテルがある特定の仕方で使用できた時があったということですね…ある種のアガピを現すために、助けを与えるために。アガピを通してのみ働くことのできるエーテルが、なぜアガピを現さない人々によって使用できたのでしょうか？別の名前の下で使用されたのでしょうか？

Ｋ：このエーテルは今はアガピの現れと関係しています。なぜなら、今ではこのエーテルは進化・成長の結果としてのみ活性化されるからです。しかし、かつてはそうではありませんでした。なぜでしょうか？過去においては、それは法則によって許されていたのですが、今では許されていません。なぜなら、地球上での人間の総体的な気づきのレベルがある特定のレベルに到達したからです。それはプログラムされています。

このように説明しましょう。それは素質的可能性のサイクルによってプログラムされています。一つの惑星における人間のレベルがある所まで到達すると、創造的エーテルを使用するという能力が止まるのです。それは地球で生じたのです。ある気づきのレベルまでは、それが許されていたのですが。

Ｑ：しかし、それはおかしい感じがします。人間が本当に無知だった時には創造的エーテルを使って何かをする必要はありません。

Ｋ：違います。人間はそれらのパワーを必要としていたのです…神のように崇拝されるために、人々を自分の前にひざまづかせるためにです。過去においてはそのような現象を行うために、パワーが必要だったのです。神々として、ファラオまたは様々な部族のチーフとして崇拝されるために。いいですか、彼らは現代の誰もが想像もできないような現象を引き起こすことができたのです。

Ｑ：彼らはそのような現象を行うエネルギーを得るために、自分たちが人々から崇拝されることを必要としていたのでしょうか？

 Page5

Ｋ：人々は彼らに人間として生き残るために何であれ必要なものを提供していました。しかし、ほとんど場合、人々は彼らから動物のように扱われていたのです。そのようなパワーを現していたのはほんの僅かな人間だけで、誰もがそのようなパワーを現していたわけではありません。彼らは高い位置にある神官、様々な部族の首長などで、エジプトの場合はファラオ、およびファラオに仕える高官である神官などでした。しかし、創造エーテルはもはやかつて使用された時と同じようには使えません。しかし、マジックとしては今での大きなパワーを現すことができます…エレメンタルを使用することによって。しかしいいですか、過去における創造エーテルでさえ、それはエレメンタルによるものだったのです。

Ｑ：色と音に関する質問ですが、究極的には一つの色と一つの音であるあらゆる色と音は実存界のものである、と言われます。それともそれらは存在の諸世界からのものでしょうか？

Ｋ：私達が知っている色や音、それらは実存の諸世界だけのものです。

Ｑ：また、最終的には私たちがテオーシスに戻る時には、魂のセルフ・エピグノシスは特定の色を得るであろう、そして各人はそれぞれ異なった色を得る、と聞いていますが。

Ｋ：色とは他人であるセルフ・モナドとは異なる存在としてモナド・セルフが得るものです。絶対存在の多重性のなかで、他の全てのモナド・セルフとは異なる存在として色を得るのです。それは自己実現です。しかし、それらの色とは私たちが現在目にしているような色とは違います。

さて、私たちが知っている色、それは実存の諸世界だけのものです。しかし、私たちの理解を超えた色や音があるかと問われれば、答えはイエスです。魂のセルフ・エピグノシス、あるいはスピリットがそれらにどのようにしてアプローチするかは、私たちにはわかりません。それらのイデア、法則にどのようにアプローチできるのか、わかりません。何かが存在するとしたら、それは何かの結果として存在するわけです；わかりますか？しかし、

**イデア、法則、原因としての色は私たちが理解する色や音と似たようなものであるとは見なさないでください。**

Ｑ：私たちはどのような瞑想に集中したらよいのでしょうか？

Ｋ：エーテルの特質をマスターするための瞑想です。しかし同時に、私たちが与えた全てのエクササイズを実習します。

Ｑ：しかし、何か一つをマスターするまでは、その一つだけを行った方が良いでしょうか？

Ｋ：一つのエクササイズをマスターするために長い間それだけをやっていると、飽きてしまい、機械的にやるようになるでしょう。ですから、様々なエクササイズを行うようにします。しかし、エーテルの特質をマスターするためのエクササイズを主に行い、同時に他のエクササイズもやると良いでしょう。例えば、今日はエーテルの特質をマスターするためのものと一緒に他のものを行い、明日は別のエクササイズを行うというように。ピラミッドのエクササイズも行ってください。ピラミッドを視覚化して見るエクササイズでさえ、それはエーテルの特質をマスターするエクササイズとなります。視覚化するために努力します。あなた方はそうとは気づかずに、常に運動エーテルを使っています；感覚エーテルも使っています。しかし刻印エーテルはもっとも難しいエーテルです。感覚エーテルおよぶ運動エーテルは容易にマスターできるので、それを行ってみましょう。

それらのエーテルを投射するのは簡単ですが、刻印エーテルは困難です。初めは感覚および運動エーテルの２つに集中し、刻印エーテルは行わないようにします。あなたは指先を感じることができるのがわかるでしょう。そこだけに意識を完全に向けて、体の他の部分を感じないようにします。それは簡単にできます。

Page6

Ｑ：転生について質問します。たくさんの本を読むと、同じ家族のメンバーと何回も生まれ変わったり、同じような人々と何回も一緒になったりするようです。何回も同じ家族として生まれ変わるのは本当でしょうか、またその理由を教えてください。

Ｋ：いいえ、必ずしもそうではありません。時々そういうこともありますが、ルールとしていつもそうなのではありません。例えば、あなたは１千年前に誰かと一緒に転生して、そしてその後何回も転生したにもかかわらずその人とは出会わなかったにもかかわらず、突然最近になってその人と一緒に転生した、ということもあり得ます。いつも同じような人々と一緒に転生すると決まっているわけではありません。しかし、時には多くの転生で一緒の時もあります。しかし、常にそうというわけではありません。今この部屋にいる人々のなかでも、あなた方のうちの誰かと誰かは過去生で一緒だったかと尋ねるなら、私はイエスと答えるでしょう。あなた方が一つのグループのなかで知り合いになっているのも偶然ではありません。

Ｑ：臨死体験をする人がかなりいますが、常に彼らはよく知っている人と出会い、しばしば母親と会うようですが、それはいつの母親なのでしょうか？

Ｋ：今生での母親です。

Ｑ：その人が知っていて、認識出来る人と会うのですか？

Ｋ：あなたは自分が創り出す人を見るのです。その人はあなたの潜在意識のなかに非常に強く記録されています。あなたはそこで会う人を創り出すのですが、しかしあなたが相手を創り出し、創造したことによって自動的にその相手の意識とつながるのです。そのような仕組み、そのようになっているのです。

臨死体験は体験を与えるためですが、しかし実際にはそのような体験をする人は真の意味で向こうに行き、戻って来るわけではありません。もし臨死体験をした人たちの報告を調べてみると、彼らはほとんど似通った体験をしています。その人が肉体を去る、死んだ後で体験することは真実なのでしょうか？答えはノーです。実際にそれが起きているわけではありません。何が起きているかというと、その人が眠りのステートに入り、その結果、記憶の表現が停止します。そしてその人は後で目覚めて、自分がまだこの世界にいるという印象を抱くのです；唯一の違いは、何であれその人が好きなことを行うということです。言い換えれば、その人は自分自身のパラダイスのなかで目覚めるのです。

Ｑ：しかし、なぜ臨死体験した人々は彼らが知っている人に会うという同じ幻想を体験するのですか？

Ｋ：それはこの地球上の人類に問いを生み出すためです。終わりというものはなく、死という現象の後にも生は続くということを考えさせるためです。

Ｑ：どのような形を帯びて（＊向こうの世界で）目覚めるのですか？

Ｋ：生前と同じ人間としてですが、前よりも若い姿を取ります。そして周囲にはあなたが好きだった人たちがいます。嫌いなものは一切周囲に置きません。

Ｑ：その至福のステートにどれほど長くいるのですか？

Ｋ：そこにいる時間は、その現在のパーソナリティーの気持ちを静めるための手当にどれほど時間がかかるかによって異なります。何であれその人がやりたいと感じることを行うでしょう。悪い経験をしがちな傾向をその人から取り除くのです。なんであれ苦痛を作り出していたものです。それは次の転生に対する準備となります；新しい転生の準備としてその人はそれらの世界に留まるのです。

**それゆえに、人によっては非常に高いサイコノエティカルな進化・成長を遂げる人がいますが、そのような人は一秒たりともサイコノエティカル界に留まることをせず、死という現象のあと即座に転生してきます。なぜなら、それらの世界に留まる必要がないからです。そのような現象が人間に生じ、即座に転生する人間たちがいます。**

EREVNA/SPA66/KE9J/13